

ダンスはなぜ人を踊らせるのか

Why dance make people dance?

1K10C379-1 星野 紗希

主査 杉山 千鶴 先生

副査 友添 秀則 先生

I. 本研究の目的と方法

ストリートダンスの最大の魅力は、かっこよさであるが、実際に踊ったり、現状を考えると、必ずしもそれだけではなく、他にも魅力につながるようなものを機能として備えているように思われる。そこで本研究では、ストリートダンス（以下、「ダンス」とする）の持つ機能について多様な側面から考察することを目的とする。そのために関連する文献や論考、資料とウェブサイト、またダンス映画のDVDを用いて考察した。

II. 結果及び考察

II-1. ダンスと文化

①**ヒップホップ・カルチャーにおける人種**：ヒップホップ・カルチャーには、ラップ、ミュージック(DJ)、グラフィティ、ブレイクダンスがあり、いずれもプライド、歴史の中で蓄積された差別、経済的貧困を反映し、黒人の精神が過去から継承されたものである。同時にこれらをプラスに方向転換し能動的に発信している。

②**人種とダンス**：フランスのヒップホップシーンとアメリカの比較を考察し、日本とアメリカのヒップホップの捉え方の違いについても検討した。

③**音楽とダンス**：黒人の置かれた状況を反映し、ブルースはソフトな反抗、ソウルはあきらめ、ファンクは排他性と多様な抵抗を示し、反社会的なヒップホップと共通する。またラップは自己の存在意義の表現であり、男女でその表現内容は異なる。

④**映画とダンス**：『フラッシュダンス』（1983 年日本公開）と『バーレスク』（2010 年日本公開）は、新旧のダンス映画であるが、華やかな舞台、夢に向かって進む主人公の姿、魅了されるダンスという共通点がある。また『RIZE』（2006 年日本公開）は、ダンスの多様なジャンルが時代のニーズに応じて進化・発展していくことを示唆した。

II-2. ダンスの運動特性

①**リズム感**：七類の考案したインターロック（七類 1999）をトレーニングに用いることにより、重要な要素であるリズム感を活かしたダンスが可能となる。また、ダンス以外の競技スポーツでも応用の効くことが期待できる。

②**重心移動**：ダンスでは裏拍をしっかりとることを必須

とするために重心移動の周期は2歩となり、重心の上下移動は熟練度と大いに関わることが考察された。またダンスは走行と等しい体力を消耗しているものと思われる。

③**運動効果**：若いころからトレーニングを継続していたり、負荷の小さい動きから始めることによって、高齢者もダンスを踊ることができると考えられる。

II-3. 現代社会とダンス

①**教育とダンス**：中学校では「ダンス」が必修化し、ストリートダンスは「現代的なリズムのダンス」の教材に用いられるようになった。これによりインフラ面での需要の増大が期待できる一方で、教員の現実とダンサー特有のモラルという問題があり、これらについて考察した。

②**ファッションとダンス**：キッズ対象のダンスファッション誌は、ダンスの世界の中にスムーズに入って行けるような配慮のされた内容である。成人男性誌は広くヒップホップ・カルチャーを愛好する人々を対象とし、女性誌は飽くまでファッション全体の一ジャンルとの位置づけで取り扱っており、ダンサー特有のファッションの普及に貢献している。

③**風俗営業法とダンス**：2012年に改正された風俗営業法の内容と現状について検討した。現在クラブは取締り対象となっているが、そこにはダンサーやクラブ側の配慮やモラルといった問題を内包する。今後はダンス人口の増加が期待できるので、この問題はぜひ解決したい。

III. 結論

ダンスの持つ機能を多様な側面から考察した結果、以下の通りとなった。

1. ヒップホップ・カルチャーは歴史に培われた精神性を有し、これを個性として能動的に発信する。
2. ブラック・ミュージックは、反社会的であり、社会と結束を築く手段となる。
3. ダンス映画は、ダンスの多様な魅力を伝える。
4. 黒人特有のリズム感の体得の可能性と応用性。
5. 上達には重心の固定が重要である。
6. 生涯スポーツとなる可能性がある。
7. インフラ面における需要の増大を期待できる。
8. ヒップホップ・カルチャーのもつファッション性。

また、学校教育において、ダンスの1つの要素として、

マナーも指導することを望みたい。